他教科の内容を取り入れた英語教育

一人でも海外旅行ができる コミュニケーション能力を身につけるために

鈴木 恭三 （岐阜県笠原町立笠原中学校）

■はじめに

１．今日的課題

国際化が急速に進展している現在，外国人とのコミュニケーション能力及び国際的な視野と，日本人としての確固たるアイデンティティを併せ持ち，国際社会に貢献できる人材を育成することが一層求められている。しかし，学校教育においては次のような課題がある。

・英語教育において，時期，指導法，学習環境についての系統的な研究が不十分である。
・小学校では，総合的な学習の時間に，英語活動を多くの学校で実施しているが，中学校で実践的コミュニケーション能力の育成につながる指導内容や指導方法がまだ確立されていない。
・小中の９年間を見通したカリキュラム開発や一貫した指導方法などの確立が求められている。

２．笠原町の取り組み

このような課題を克服するために，笠原町では，一町一小学校一中学校という特色を生かし，平成14年10月に「笠原町一貫教育推進協議会」を発足させ，一貫教育の柱のひとつとして英語教育を掲げた。小中の連携を踏まえながら，より効果的なコミュニケーション能力の育成を目指す英語教育のアプローチを究明するため，コンテント・ベースト・アプローチ(Content-based Approach)の手法に着目し，本研究主題を設定した。現在，文部科学省から「教育研究開発学校」の指定を受け，全国に向けて研究成果を発表する準備を進めている。

■ CBAE とは

CBAE とはContent-based Approach in Englishの略で，ひと言でいえば「内容を重視した学習」のことである。本研究では，他教科の内容を取り入れ，伝え合う内容を重視した英語活動等と考えている。CBAEには，以下のような利点が期待される。

１．日本人としてのアイデンティティの見つめ直し

単に英語が話せるようになるためだけの教育ではなく，英語学習を通して，より確かな日本人，より深い日本をつきつめ，自覚する。

再考：海外に日本文化を発信するために，日本や日本文化そのものを見つめ直す機会となる。
自覚：日本人としての自信と誇りをもって日本文化を語ることができる。
確立：相手を思いやるとともに，なんの恐れもなく自分の考えを出していける。

２．他教科のエキスを生かし学習意欲を高める

明確な学習目的のある授業過程を設定し，児童生徒の知的好奇心を喚起し，学習意欲を高める。そのために，各教科担任が教科の魅力を最大限に引き出す内容を教材として取り入れる。以下，技術科の例をあげる。

＜技術科のエキス＞平らな紙も，折れば立つことができ，柱にすることもできる。橋の構造は人間の知恵の結集。「工」という文字はレールの構造からきたものである等。

３．生活に直結した表現を身につける

必修英語の教科書だけでは，生徒が生活の中で使用できる語彙や表現は限られている。それを補う立場がコンテント学習である。生徒は，他教科の内容を取り入れたコミュニケーション活動を通して，生活に密着した表現を学習する。

■コンテント学習の位置づけ

本校の生徒は，従来の「必修英語」や「選択英語」のほか，CBAEに基づいた「コンテント学習」の授

業でも英語を学習することになる。コンテント学習は，週２時間，総合的な学習の時間を使って行っており，以下のような特長を持っている。

１．生徒の中から生まれる英語表現への要求をもとに，生徒がすでに獲得しているコミュニケーション能力を駆使して，「課題」に立ち向かわせる学習である。

２．教え込むことを最小限にして，生徒の要求に応じて必要な表現を提示し，表現しようとする積極的な姿勢を評価する学習である。

３．多様なコミュニケーション能力獲得の方法があるため，教科の内容に応じて，多様な実践を試みる学習である。

■コンテント学習の目指すもの

コンテント学習によって身につけたい力は，authenticな力，実践の場で発揮できる実践力である。具体的には次の３つの能力である。

情報収集力（必要な情報を自分の力で収集する力）

情報とは，教科の学習内容に加え，語彙も含める。

情報発信力（情報提供力，自己表現力）

自分で収集した情報，自分の考えや気持ち，意見を発信する力。

言語運用力（問題解決力）

伝えたい内容をどう表現すべきかわからず立ち往生したときに，既習の英語を駆使して問題を解決する力。

これら３つの能力は，英語に限らずあらゆる教科・分野で必要な力，つまり“生きる力”である。

生徒のクリエイティブな力を引き出し，生徒が判断し，創造し，選択し，考えることができる活動を通して，より実践的な力を育てる。生徒の自由な発想に基づいて実践の学習の場で英語を使用することで，どんな問題や試練に出くわしたときも，自らの力で道を切り開いていく力を育てる。

我々の目標とする生徒像は「英語を恐れない」「外国人に臆さない」「他の表現方法を考える」生徒であり，「一人でも海外旅行ができるコミュニケーション能力を身につけた」生徒である。

■指導体制

指導する教師の側には，「教科担任」（JTS, Japanese Teacher of the Subject)，「言語指導助手」(ALT, Assistant Language Teacher)，「英語科担任」(JTE, Japanese Teacher of English)という３つの立場がある。それぞれが自分の役割を自覚しつつ，チームとして指導にあたる。（表１参照）

中でも教科担任の役割の自覚は不可欠である。例えば，授業中に「これを生徒に伝えたい，でも何と言ったらいいんだろう」と悩む瞬間がある。これはまさしく生徒に体感させたい“立ち往生”の瞬間で

表１ ティームティーチングの役割と評価の観点

それぞれの役割や評価の観点を明確にして，個々に応じた適切な指導援助にあたる。

JTS（教科担任）	ALT（言語指導助手）	JTE（英語科担任）
・授業の流れをALT，JTEと相談しながら決定する。 ・授業を進行する。 ・学習者のモデルとなる。 ・学習内容や学習活動の何がポイントかを強調する。 ・個々に応じた援助を行う。 ・個々の良さを広め，認め，誉める。 ・場面に応じてALTに質問等して児童生徒の理解を促す。 ・ALTの英語を繰り返して，生徒の理解を深める。	・ネイティブの英語（英語特有の発音・リズム・強勢など）をより多く聞かせる。[活動のイントロダクションで，説明で，活動中のサポートで，最後の評価でetc] ・その場に応じた言語や本時の言語材料を積極的に話す。 ・必要に応じて海外の文化・生活・習慣などについて積極的に話す。 ・説明内容などについて，いろいろな言い方をする。 ・個々の良さを広め，認め，誉める。	・ALTの英語が難しいとき，他の英語に置き換えたり，強調したりする。 ・説明内容などについて，いろいろな言い方をする。 ・個々の良さを広め，認め，誉める。 ・場面に応じて繰り返しや質問などを口添えして児童生徒を巻き込む。 ・ALTの英語を繰り返して，生徒の理解を深める。

あり,問題解決能力を高める最大のチャンスである。それは，英語が苦手であればあるほどより多く直面する瞬間であり，英語が専門でない教科担任がオールイングリッシュで授業を行えば，当然こうした状況は多くなる。教師がその問題を解決しないで，逃げ腰になったり，避けて通れば，生徒も同じように英語を駆使して自己表現しようとはしない。

ある英語の研究授業で，生徒の知らない単語が出てきたとき，教師は全精力をかけて，その意味を英語で伝えようと挑んだ。あの手この手でその意味を伝えようと試みるが，生徒は首を横に振るばかり。汗を流して悪戦苦闘する中で，生徒はオールイングリッシュで授業を行っていくことの困難さと意義を理解した。「それはね，こういう意味なんだよ。」と日本語で意味を伝えれば，3秒で解決する瞬間だった。しかし，その安易な方針をとらず，あえて英語での説明に挑んだ英語教師の態度に，多くの参観者から絶賛の声があがった。

このような場面に直面するのは，なにも教科担任ばかりではない。程度の差こそあれ，英語科教員もまた同様である。教師自身が「どうやって表現したらいいか，わからないけれど，それでも自分の英語力で伝えていくことに挑む」姿を示すことができる。それがCBAEのもっとも大きな利点の１つである。そして，最も大切にしたいことは，「教師も生徒も英語を楽しむ」ことである。そのために全職員で確認しあったことは，以下のとおりである。

We are not afraid of mistakes.

私たちは間違いを恐れない

We love mistakes.

むしろ間違い万歳！

■コミュニケーション活動

コミュニケーション活動を設定する際には，次の４つの項目について充分に考慮する。

①**interactive**　生徒が自分の考えや気持ちを相互に伝え合う活動

②**creative**　生徒が自分の考えや気持ちを表現できるような創造性や選択性のある活動

③**task-based**　生徒が解決すべき課題・仕事・ハードルが明確な活動。課題は，目的，ゴール，方法が明確であること。

④**impromptu**　相手の言ったことに対して即座に英語を考えて話す活動

■日常的な英語環境・英語活動

授業において洗練された英語のシャワーを浴びても，授業外では日本語環境の中で生活している生徒にとって，英語を言語として定着させるまでには大きな壁がある。その壁を少しでも乗り越えるために，本校では全校体制で「英語環境作り」に取り組んでいる。全校共通で教室英語を普及させるとともに，１年生"Japanese Street"２年生"Euro American Street"３年生"Asian Street"とそれぞれテーマを設けて，廊下に各国の情報掲示や名物などを作成して展示している。「どんな国からの来訪者も温かく迎え入れよう」と，生徒玄関には全校生徒の英語自己紹介を掲示している。階段には，生徒の手による「私たちの先生紹介」を英語で掲示している。このように，校内いたるところで英語に親しめるよう工夫している。

さらに授業外でも，楽しいと感じることができる英語活動を目指して，休み時間や給食時間に英語を話す"All English Day"や，教師が生徒を英語で出迎える"Good Morning Day"，そして近郊の海外留学生を迎えて「国際交流の日」などを設定し，英語学習の節目としている。また，空き教室に"English Cafe"を設置して，生徒たちがNative Speaker (ALT) と昼休みなどに気軽に会話を楽しめるようにしている。希望者を募り，カナダの公立学校と文通を始めた。また，将来は英字新聞が読めるようになることを目指して，英語科教員とALTが協力して，季節行事など身近なトピックを中心とした『Challenge!』という英字新聞の刊行に尽力している。小学校PTAでは，家庭でも親子で英会話を楽しめるように，基本的な日常会話を掲載した『プライド』という冊子を作成して配布している。

■小学校との連携

教科における内容，見方・考え方・学び方を系統的にとらえると同時に，発展的に教科の特性に応じたコミュニケーション能力の育成を望めるよう，９カ年の指導計画の作成に取り組んでいる。以下，社会科コンテント学習の実践を例にあげる。

小学校において，社会科地理的分野のコンテント学習は，５年生の「日本･世界の国土」，６年生の「世界の学校生活」,「日本の遊び･アメリカの遊び」で行われている。

５年生では，英語を用いて任意の都道府県を探したり，どの県がどの地方に属しているかを調べたりする。また，長い川や高い山を探す活動を通して，それぞれの川や山がどの地方にあるかを表現する方法を扱う。さらに，世界の国々がどの州に含まれているかを表す活動を行う。

６年生では，日本とオーストラリアの夏季休業日の日数を視点とし，気候の違いや生活習慣の違いを比較する活動を行う。

中学校では，実物に触れることを大切にし，ALTの出身国であるアメリカ，オーストラリア，アイルランドについて学習を行っている。

さらに中学校では，小学校５年生で行っている「～県は○○地方にあります」や「～国は○○州に属しています」を発展させ，「～in the（方角）of ○○」を活用して詳しい位置関係について表現する。また，雨温図を活用して気温や降水量について尋ね合う活動を行っている。ここでは，資料をもとに英語を活用して，正しく情報を伝えることを大切にしている。また，６年生で行っているような，国の気候や人々の生活習慣などの地域的な特色を学ぶ活動を発展させ，地域の特色を調べる中で知り得た情報について英語を活用して伝える活動を行う。ここでは，単に情報の伝達を行うのではなく，相手に地域の特色や自分の思いをいかに分かりやすく伝えるか，既習の英語表現を駆使して工夫を行うことを大切にしている。

以上のように，資料から読み取った情報を「特定の表現方法」を用いて「正しく相手に伝える」活動から始め，資料から読み取った情報を「学習した構文や慣用句など」を活用し「正しく伝える」活動へと展開していく。またさらに，相手により「分かりやすい表現方法を工夫して」伝える活動に発展させていきたいと考えている。

以上のことから，社会科コンテント学習の本時のねらいを，「アイルランドの特色を紹介するコマーシャルを聞き合う活動を通して，行きたい所とその理由を英語を使って表すことができる」とした。

■最後に

研究に関わるほんの一部を紹介させていただいた。研究の詳細や授業の実践の様子など，詳しくは下記のホームページをご参照願いたい。平成17年11月１日には，これまでの研究成果を発表する報告会を行う予定である。詳細は下記のホームページなどを通してお知らせする。多くの方にご参加いただき，ご意見を頂戴できれば幸いである。

笠原小学校（電話0572-43-3541）
http://ob.aitai.ne.jp/~kasasyo/frame.htm
笠原中学校（電話 0572-43-4165）
http://www.town.kasahara.gifu.jp/~kasachu/

TEACHING ENGLISH NOW　別冊　授業通信　第22号
□2005年11月7日発行　□編集・発行人：八幡　統厚　□発行所：株式会社 三省堂
□〒101-8371東京都千代田区三崎町2-22-14　□電話：03(3230)9422
□E-mail：newcrown@sanseido-publ.co.jp　□ホームページ：http://tb.sanseido.co.jp/english/